種文学賞　平成三十一年二月課題

「はじまりの物語」

二月十一日は建国記念日です。初代の天皇と伝えられている神武天皇が即位した(天皇になった)日が、今の暦では二月十一日にあたるため、この日が建国記念日に定められたそうです。

ただし、この神武天皇とはいわば伝説上の人物。『古事記』や『日本書紀』という、今から一三〇〇年ほど前に作られた歴史書にのっている、日本神話の登場人物に過ぎないと言われています。

さて、わが国の神話もふくめ、世界各国にはさまざまな神話や民話がありますが、そこではたいてい、世界がどうやって生まれたかなど、さまざまな「はじまりの物語」が語られているものです。

そうした世界各地の神話や民話が伝えている「はじまりの物語」を少し紹介しましょう。

国語専門学習会
種

①【日本列島のはじまり（日本の神話）】

まだこの世界に陸地も海もなく、どろどろのスープのようだったころ、イザナギとイザナミという男女の神が、天浮橋に立ち、天沼矛という矛をもって、そのどろどろのスープをかきまぜた。矛をぬくと、先から潮がしたたり落ち、それが固まって「おのころ島」になった。二柱※の神はそこに降り立ち、まず淡路島、次に四国…という順番で、日本列島の島々を生み出していったといわれている。

※神様の数は「～柱」とかぞえます。

②【寿命のはじまり（日本の神話）】

天皇の先祖にあたるホノニニギという神が天から地上に降り立ったとき、コノハナサクヤヒメ(木乃花佐久夜姫)という美女に恋をした。ホノニニギが、サクヤヒメの父オオヤマツミに結婚を申しむと、オオヤマツミは、サクヤヒメの姉イワナガヒメ(石長姫)もつれていくよう伝え、ホノニニギもそれに従った。しかし、美しいサクヤヒメに対しイワナガヒメは醜かったため、ホノニニギはやがて送り返してしまう。しかし、これよって、ホノニニギの一族は、「木の花のように栄えること」ができても、「岩のように永遠に続く命」は持てないことになってしまった。こうして、人が寿命を持つようになったのだという。

③【やまびこのはじまり（ギリシャの神話）】

エコーというおしゃべりな妖精（ようせい）が、ヘラという女神の怒り（いか）を買い、呪（のろ）いをかけられた。それは、自分ではしゃべることができず、他の人が言う言葉の最後をくり返すことしかできなくなるという呪いだった。エコーは好きな人と話すこともできなくなってしまい、悲しみのあまりだんだんとやせほそっていき、とうとう姿（すがた）を消してしまった。私たちが山の中などで聞くやまびこ（英語で「エコー」という）は、消えてしまったエコーからの返事なのだそうな。

④【テリーヅ鳥の頭が赤いわけ（パラオの神話）】

オホハヅという女神が人間を創（つく）ったとき、その仕上げとして人間に石を飲ませようかと考えていた。するとそこにテリーヅという鳥（ナンヨウクイナ）がやってきて、「風を飲ませたらよいでしょう」と言ったため、風を飲ませた。その結果（けっか）、人間は石のように永遠に続く命を持つことができなくなり、風（空気）がないと生きられないようになった。

そのほかにも、テリーヅ鳥はなにかとオホハヅによけいなことを言って邪魔（じゃま）をしたため、とうとうオホハヅが怒り、テリーヅの頭をなぐった。そのときテリーヅの頭からは血がながれたが、それから今でもテリーヅ鳥の頭は赤いのだといわれている。

もっともっといろいろな国々に伝わる「はじまりの物語」がありますので、気になったらぜひ図書館などで探してみてください。

さて、こうした世界の神話・民話に伝わる「はじまりの物語」を参考にして、井原さんが自分だけの「はじまりの物語」を創ってみたようです。次のページにご紹介していますので、それを見ながら、あなたも自分だけの「はじまりの物語」を創作してみませんか？

問　二〜三ページに挙げた各国の神話や、井原さんの創作した神話を参考にして、あなたも自分だけの「はじまりの物語」を創作してみましょう。登場する神様や人物は、自分で作り上げて良いですし、あなたの知っている神話や民話の中から取り出してもかまいません。

原稿用紙に書いてください。字数制限はありません。

井原さんの創作神話

ジョギングのはじまり

井原恵麻

昔々、神様が人間を創り上げてから間もないころ、人々は今よりもずっとずっと体力があって、足も神様と同じくらい速かったのでした。何万キロという距離をあっという間にかけぬけることができたし、いくら走ってもなかなか疲れなかったのです。だから人々はその体力と足を生かして、世界中のどこへでも走っていき、貿易をし合って豊かに暮らしていました。

しかし、そんな人間たちにも絶対に立ち入ってはいけない「神の地」というものがありました。ただし、そこは世界の果てにあり、いくら体力があるといってもたどりつけないほど遠い場所にあるので、その場所に行ったことのある人間などいませんでした。

ところが、あるとき特に体力があって足が速く、しかも好奇心がおうせいな若者たちがその「神の地」にたどりついてしまったのです。そのことで神様はもうれつに怒り、ばつとして人間たちから体力と足の速さをうばってしまいました。

それ以来、人間たちの足腰は弱くなり、立ち上がって歩けばすぐに疲れてしまうようになってしまいました。それまでのようにさかんに体を動かすことができなくなったため、世界中の人々はひっそりと、元気なく暮らすようになりました。

しかし、あるとき、ジョグという若者が一つの発見をします。ジョグは友達にこう言いました。

「なあ、おれ、実は一カ月前から少しがんばって毎日歩いているんだ。そうしたらさ、疲れ果てて歩けなくなってしまうのが、一日ずつおそくなってきたんだよ。今では、ゆっくりのかけ足なら、あの向こうの丘まで行くことができるようになったよ。」

そう、毎日少しずつ運動をすれば、だんだん体力がついていくということ、また、力をおさえながら走れば、あるていど長い距離を走れるようになることに、ジョグは気付いたのでした。

それ以来、人間たちは、昔のように全速力でいつまでも走れるわけではありませんが、少しずつ長い距離を走るようになっていったのです。ジョグの考え出した走り方は、「ジョギング」と名付けられ、現在まで伝わっています。